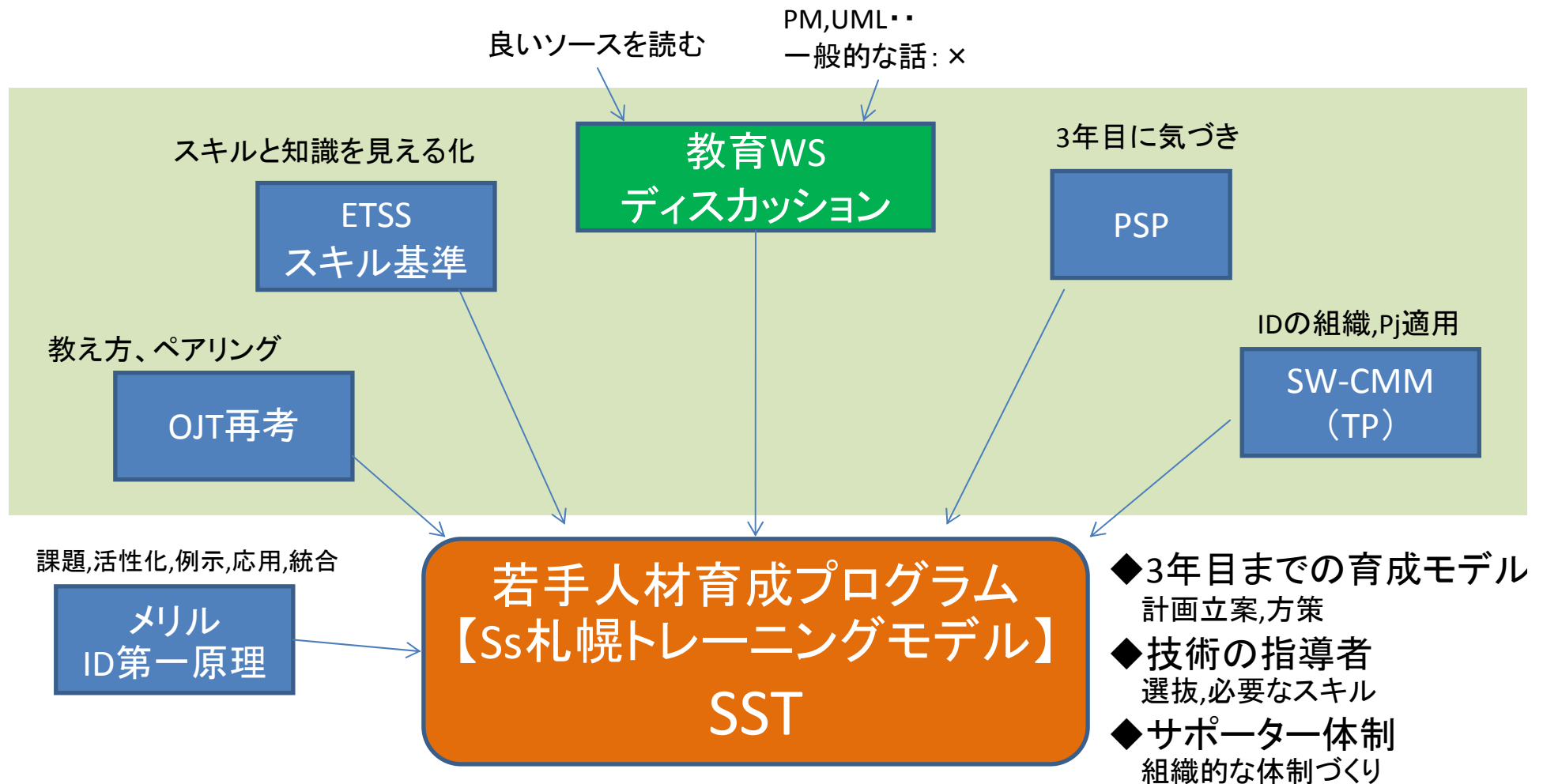
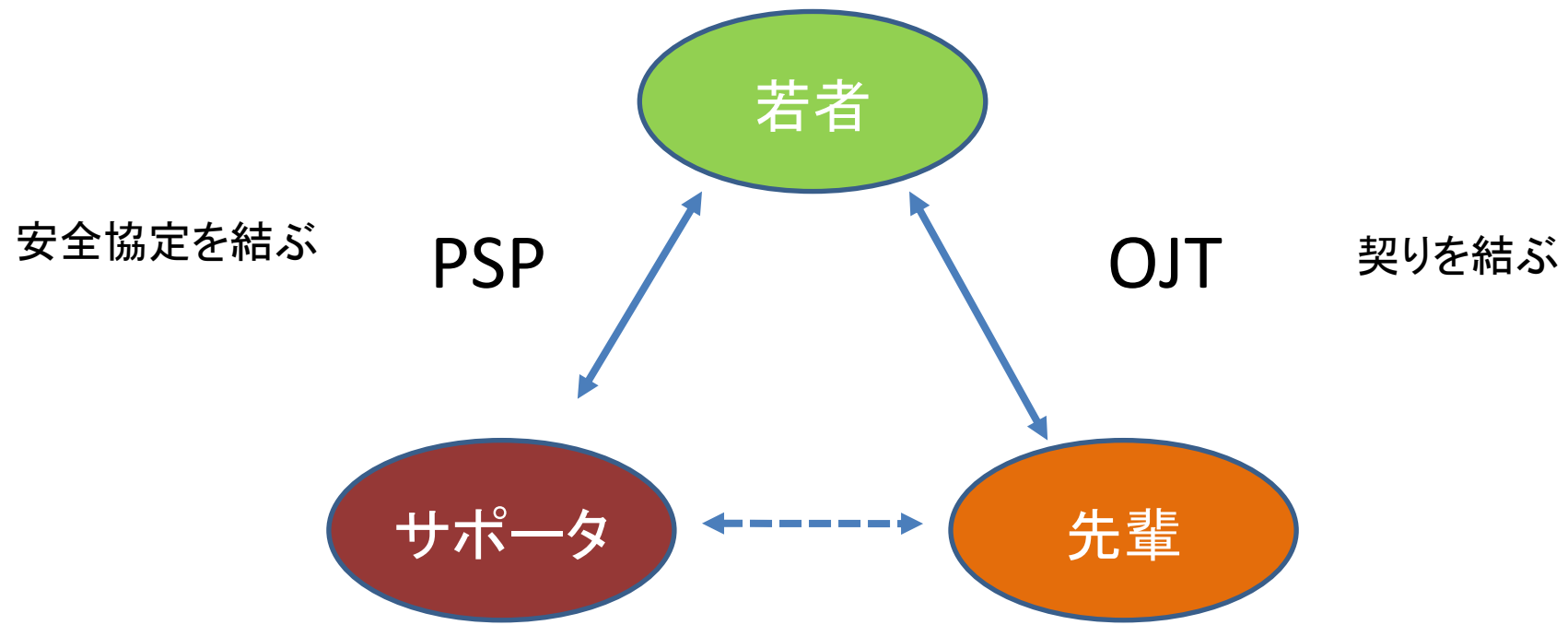


SS2009教育WSコンセプト



SSTモデルフレームワーク

人	育てる対象	1～3年目の若者
	支援する人	先輩。2, 3年目の若者でなく、6,7年目の中堅どころ。 * 探究心がある技術者(本を読む)
組織	フォーメーション	若者、先輩、サポーター 若者-(OJT)-先輩、若者-(PSP)-サポーター * サポーターは遠隔で可能!! ⇒ スケーラビリティ確保, 威厳 * サポーターは支援する魂が重要!!
	支援体制	工数: 訓練工数を計上する 上長がオーナーシップを持つ(ペアリング、適切な関与)
指導	見せる	先輩が必要な知識、スキルを見せる(技術がないとできない)。いいもの(コードなど)を選び見せる。
	測る	実際の稼働を測る。1週間でまとめ振り返る * 稼働計測結果を先輩に伝達するには考慮が必要(サポーターが判断)
	知る	測った結果をもとに作業見積もり。自分で自分を知る。 * 稼働測定期間は短くてもいい。把握できればいい。
ツール		CMM, PSP, ETSSなどを単品でなく組み合わせて活用する。



稼働などの情報提供は
安全協定に基づき慎重に判断